

立命館經濟學

第十卷 第一号

昭和三十六年四月

内 容

論 説

- 労務管理の対象……………坂 寄 俊 雄 1
- 賃労働者の範疇的把握（中）……………梯 明 秀 22
——マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して——
- 士族反乱の構造的特徴について……………後 藤 靖 85

研 究

- 資本予算と減価償却……………服 部 俊 治 131
——投資利益率に及ぼす加速的減価償却の効果——

立 命 館 大 学 經 濟 学 会

立命館経済学

第九卷・第五号

論説

差額地代にかんする剰余生産物説 白杉庄一郎

——榊田説批判——

価値尺度機能と

価格の度量基準機能

——天沼説への私見——

小牧聖徳

研究

国有企業価格政策論争について 辻和夫

十八世紀におけるライン繊維工業の展開と

「営業の自由」の前提条件(一) 川本和良

発行所 立命館大学人文科学研究所

立命館経済学

第九卷・第六号

論説

賃労働者の範疇的把握(上) 梯明秀

——マルクスの「商品人間の自己意識」の分析に限定して——

戦後日本の農業制度の破綻 井上晴丸

古典学派に於ける財政思想(一) 箕浦格良

——A・スミスとJ・S・ミルの租税原則論の展開——

丹後機業地における

労使関係について 足立政男

研究

十八世紀におけるライン繊維工業の展開と

「営業の自由」の前提条件(二) 川本和良

発行所 立命館大学人文科学研究所